

特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

平成27年度病虫害発生予察 特殊報第1号

- 1 病虫害名 チャトゲコナジラミ (*Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai)
- 2 発生作物 チャ
- 3 発生場所 長崎県佐世保市
- 4 発生確認の経過及び発生状況
 - (1) 平成28年2月22日に佐世保市の一部のチャ園において、コナジラミ類幼虫の寄生を確認した。
 - (2) 採集した幼虫を農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、県内未発生のチャトゲコナジラミ (*Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai) であることが確認された。
 - (3) 発生状況について2月29日～3月1日に調査したところ、同圃場の周辺圃場でも本種の発生が確認された。
- 5 形態及び生態等
 - (1) 本種の成虫の体長は約1.1～1.3mm、体色は橙黄色であるが、白粉で覆われているため灰色に見える(写真1)。孵化幼虫は淡黄色で、2～4 齢幼虫は光沢のある黒色の楕円形で周囲に白色ロウ物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する(写真2)。幼虫の体長は約0.2～1.3mm である。卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状である。
 - (2) 本種は当初、ミカントゲコナジラミのチャ系統として発生が報告されてきたが、平成23年3月にチャトゲコナジラミとして新種記載された。チャトゲコナジラミは平成16年に京都府で初確認されて以来、チャおよびヒサカキ等の寄主植物で、本報告までに30都府県で発生が確認されている。
 - (3) 本種は、卵、1～4 齢幼虫を経て成虫になる不完全変態の昆虫である。年間3～4 世代発生し、主に3 齢及び4 齢幼虫で越冬した個体が、翌春に成虫になる。越冬世代成虫の発生時期が一番茶の生育期～摘採期と重なる。幼虫は、葉裏に寄生し、孵化直後の幼虫は歩行するが、定着後の幼虫は移動しない。成虫の寿命は2～4 日間と短い。羽化後まもなく交尾し、主に葉裏に産卵する。チャの他、ヤブツバキ、サザンカ、サカキ、ヒサカキ、シキミ等にも寄生する。
 - (4) 本種は成虫及び幼虫が葉を吸汁加害するほか、幼虫が排泄する甘露がすす病を誘発する(写真3)。また、成虫の発生が茶葉摘採期と重なることから、摘採作業中に成虫が作業者の目や口に飛び込み、作業に支障をきたすことがある。
- 6 防除対策
 - (1) 幼虫は下位葉の葉裏に多く生息し、成虫は新芽によく集まるので、定期的にこれらの部分の葉裏を観察し、発生が確認された園では速やかに薬剤防除を実施する。
 - (2) 成虫は、他のコナジラミ類と同様に黄色に誘引されるため、成虫が発生する4月以降に発生園および周辺地域に黄色粘着トラップを設置し、その発生状況を把握する。

- (3) 黄色粘着トラップに大量に捕獲されていた成虫が捕獲されなくなるなど、成虫の発生がおさまったところが若齢幼虫の発生期であり、防除適期である。
- (4) 薬剤散布は、寄生の多い下位葉の葉裏に十分にかかるように丁寧に行う。薬剤をかかりやすくするため、散布前に深刈せん枝やすそ刈り等を行うとともに、寄生葉は土中に埋めるなど適切に処分する。
- (5) 冬期には、幼虫に対してマシン油乳剤（使用時期：10月～3月）による防除を行う。なお、マシン油乳剤は2回散布することで効果が高まるが、赤焼病の発生を助長するため散布時期等に注意が必要である。
- (6) 発生地域からの苗木、生葉、作業機械及び人等の移動による本種の拡散に注意する。特に、改植園については定植時に防除を徹底する。



写真1 チャトゲコナジラミ成虫
(原図：京都府茶業研究所)



写真2 葉裏に寄生したチャトゲコナジラミ幼虫



写真3 チャトゲコナジラミが排出した甘露によって発生したすす病

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

